

# 伊勢湾周辺地域における 方形周溝墓の埋葬施設

宮腰健司

本文では伊勢湾周辺地域での方形周溝墓の埋葬施設データをまとめ、この地域の様相の一端を導きだそうとした。方台部上に設けられる土壙数は基本的に1基で、2・3基の複数埋葬もIV期以降に増加する傾向がある。また5基以上の埋葬施設をもつ「多数埋葬」はIV期以降に現れるが、1~3基のものとの格差は大きい。またIV期には方台部への盛土や、土器棺の方台部内への設置など大きな変化がある。また土壙には大きさにいくつかのランクがあり、幼児を含む男女が被葬者であると考えられる。さらに方形周溝墓群に匹敵するような土坑墓群の存在は今のところ想定しにくく、方形周溝墓周辺に散在すると考えられる。

## はじめに

伊勢湾周辺地域では、方形周溝墓は弥生時代前期に出現し、中期後葉以降主要な墓制となる。ただ遺体を埋葬したはずの埋葬施設が検出される事例は少なく、410基を超える数の方形周溝墓が出土した清須市朝日遺跡でも、埋葬施設と考えられる土坑が検出された例は47例と11%程度で、さらに人骨が出土したものとなると、4例1%程になる。また現在のところ棺材が遺存した例もない。土坑を埋葬施設と認定する要件としては、第一に人骨が遺存していること、次に遺体を安置した棺の出土があげられるが、この条件のみで抽出した場合、伊勢湾周辺地方では極めて特殊な事例のみとなる。そのため本文では、原則周溝墓の方台部上にあり、一定の大きさと形態（方形または橢円形）、方向性をもつ土坑を埋葬施設として認定して取り扱った。また津市倉谷方形台状墓のように、墓域以外遺構がなく、さらに方台部の範囲があいまいな場合は、方台部外の土坑も上げた。土器棺については、方台部上に設置されたもののみを取り上げている。

時期区分については、I期・前期（尾張遠賀川系土器期）、II期・中期前葉（尾張朝日式期）、III期・中期中葉（尾張貝田町式期）、IV期・中期後葉（凹線文系土器期）、V期・後期（八王子古宮式期・山中式期）、VI・VII・VIII期（廻間

式期）とする。なお、取り扱う時期はI~VI期を中心とし、VII期以降は必要と思われるものを取り上げている。

## 墳丘

本章ではまず埋葬施設が設けられる方台部の様相についてみてみたい。

II期の朝日遺跡SZ047は盛土をもつ墳丘や土壙は確認されていないが、方台部中央で2基の埋葬人骨が出土している。1号人骨・2号人骨ともほぼ方台部の中心に位置しており、方形周溝墓の埋葬施設と考えられる。遺存状況のよい1号人骨は、検出面である地山面から10cm程浮いた状態で出土しており、その上に盛り上げられたと考えられるI期の土器群が出土している。このことから、検出面から50cm程、人骨上面からでも30cm程の盛土があったことが推定された（図1）。

III期の朝日遺跡SZ303・306は長径15mを超える大きな方形周溝墓であるが、検出面は平坦で、盛土は明瞭ではない。周溝はIII期には上部付近まで埋没てしまっているが、その後窪地状になっていたようで、VII期の堆積がみられる。方台部に近い側の周溝の埋積状況をみると、検出面より高いレベルに方台部肩があつたと推定される（図2）。

IV期のSZ111は、方台部で3基の土壙と1基の土器棺が検出されている。この方形周溝墓

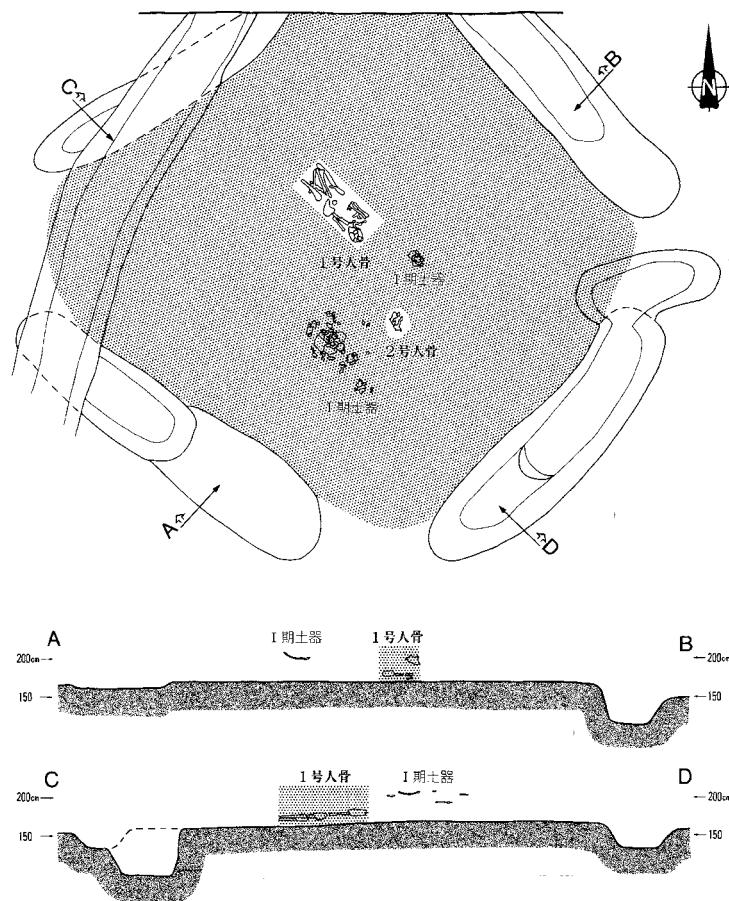


図1 朝日遺跡 SZ047 (II期) (平面図・断面図とも1:100)

38

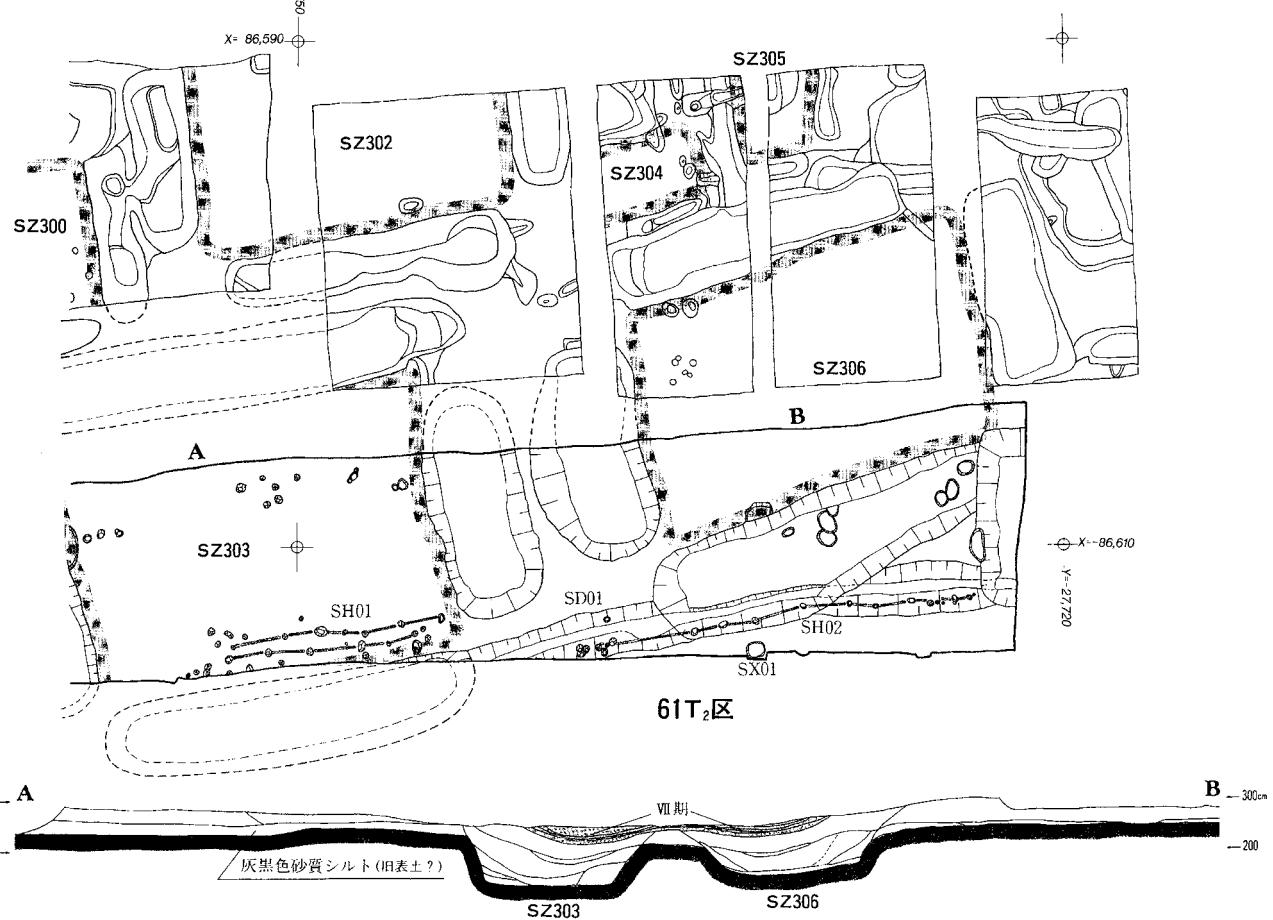
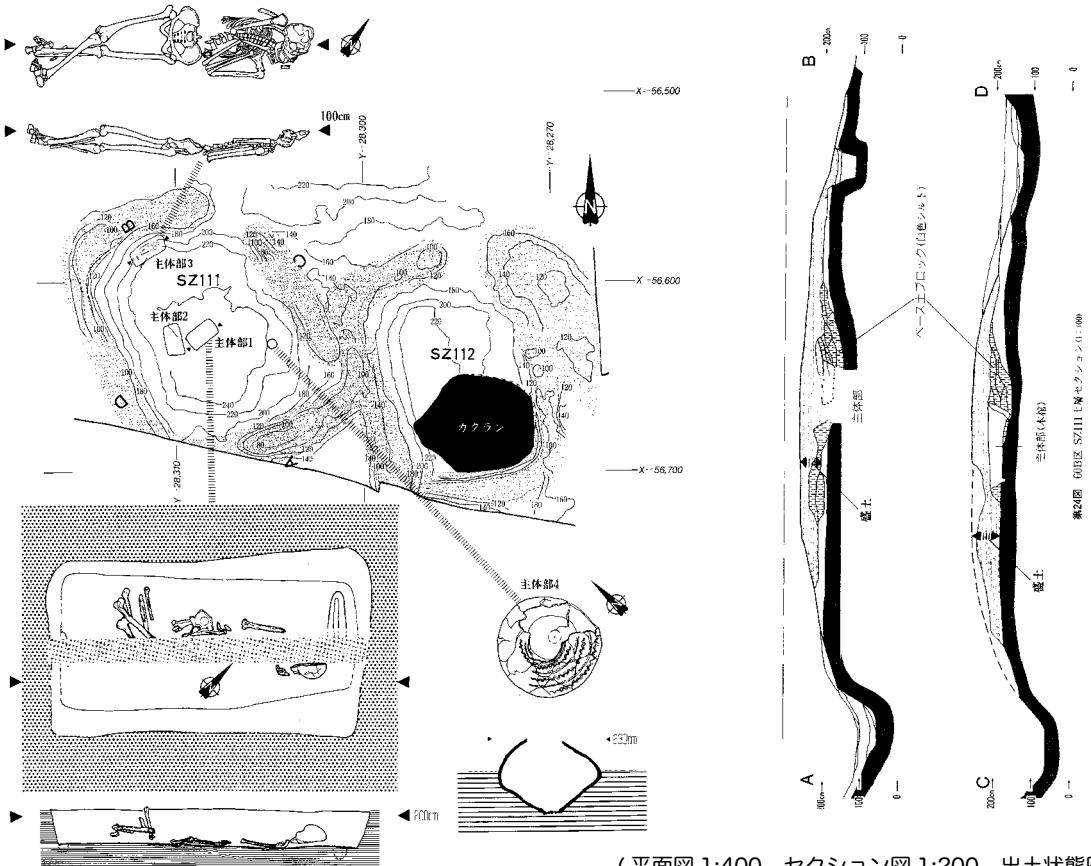


図2 朝日遺跡 SZ303・306 (III期) (平面図1:300、・セクション図1:150)



(平面図 1:400、セクション図 1:200、出土状況図 1:40)

図3 朝日遺跡 SZ111 (IV期)

39

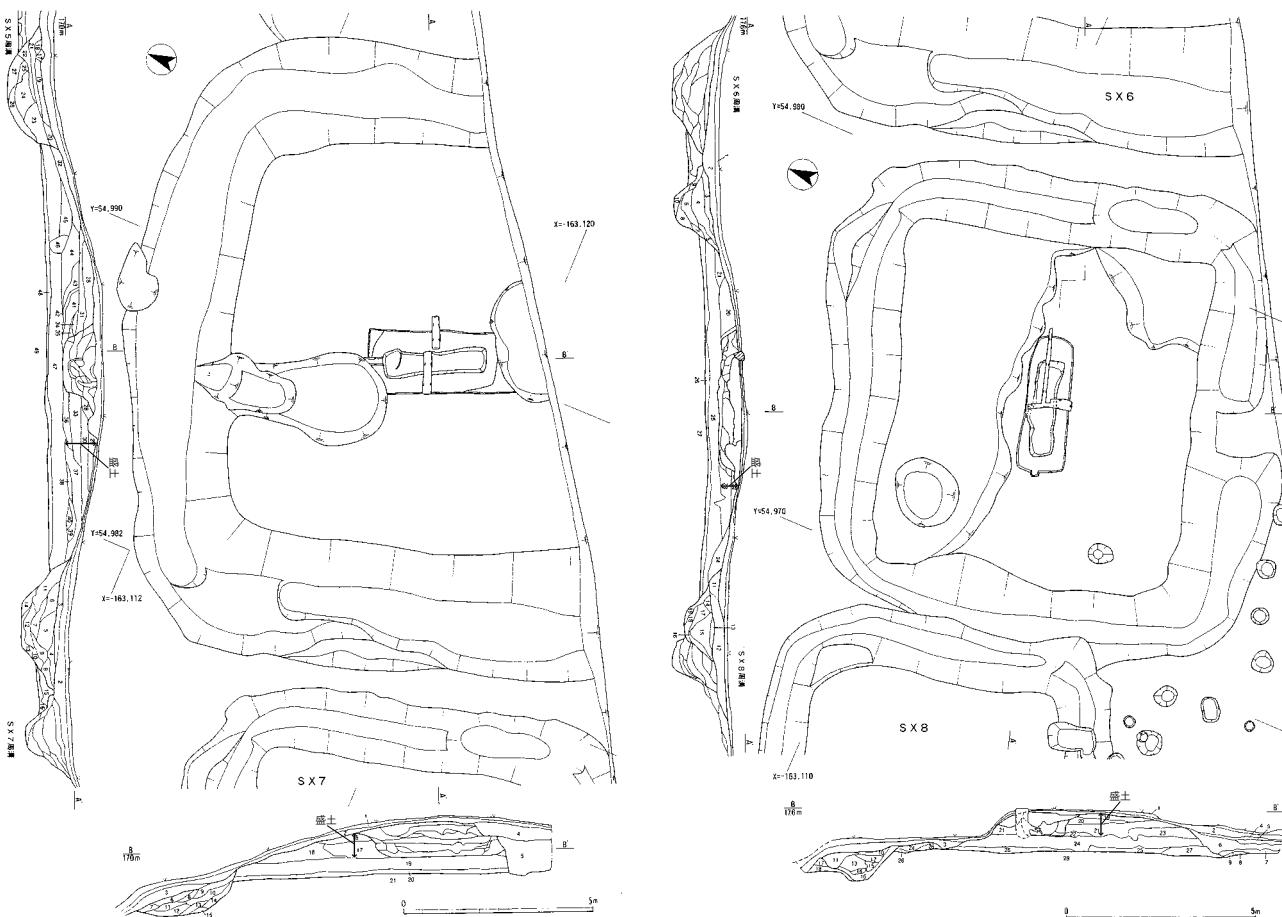


図4 織糸遺跡 SX6、SX7 (VI期)

(平面図・セクション図とも 1:200)

は60～100cmの厚さにベース土（白色シルト）と暗灰色砂質シルトが積み上げられており、墳丘最上面から墓壙が穿たれたと考えられている。中央部の埋葬施設の周囲の盛土にはベース土が多く用いられているが、この中央部の盛土にベース土を用いる方法は、朝日遺跡ではIV期以降よく観察される（図3）。

VI期の多気郡明和町織糸遺跡は台地上に立地する遺跡で、4基の方形周溝墓で埋葬施設が確認されている。織糸遺跡では40～80cmの盛土された墳丘が確認されている。墳丘は、まず方台部端に沿って土壠状に幅100cm・高さ20～30cm程暗褐色系の土を盛り、その中に褐色系の土を入れて構築される。埋葬施設の掘り込みの深さは、最も深いもので80cm、断面で観察された棺の深さは70cmを測る。棺底面は緩いカーブを持っており、割竹形の木棺が想定されている（図4）。

方台部の端部に沿って盛土し、その後凹んだ中央部に土を充填するという墳丘の構築方法は、VI～VIII期の御嵩町金ヶ崎遺跡でも確認されている。段丘上に立地する金ヶ崎遺跡は、4基の墓で埋葬施設が検出され、方台部には上記の構築方法による盛土が、40～100cmの高さに積まれている。埋葬施設の設置には、中央部の盛土後に棺を入れるものと、棺を置いた後中央部に土を入れるもの二通りあり、舟底状木棺と割竹形木棺が使用されたと考えられている。

以上の事例から、IV期以降方形周溝墓の方台部には盛土が行われていたことが判る。さらに墳丘の構築には一定の構築方が採られているよう、その高さは50～100cmはあると思われる。またIII期以前にも周溝の土を盛る程度の行為はなされており、50cm程度の盛土はあったと想定される。

## 埋葬施設（表1～3）

### （1）土壙

先述したように人骨や木棺などの確実に埋葬の証左となるような遺物の出土は少なく、方台部上の土坑の検出状況や断面観察により土壙を抽出している。

土壙の数は朝日遺跡や名古屋市北区志賀公園遺跡、津市大城遺跡でみられるような1～3基のものと、倉谷方形台状墓や一宮市山中遺跡、豊田市川原遺跡（図7）のように5基～10数基設けられるものとがある。土壙数においてこの両者の格差は大きく、現在のところその中間的な様相を一般化して発展段階的にたどることは難しい状況にある。伊勢湾周辺地域においては、全時期を通して前者が主流であり、後者の5基以上の多数埋葬は限られた遺跡で採用された埋葬方法と考えたい。

さらに1～3基の「少数埋葬」について詳しくみると、中央部に1基設置されることが最も多いことがわかる。2基のものはIII期以前にも散見できるが、IV期以降数が増加する。3基のものとしては、朝日遺跡で1例III期に遡る11次SZ2があるが、墓壙と認定することが難しい土坑も含まれており、2基になる可能性もある。この事例を加えても、3基が一般的になるのはIV期以降である。つまりIII期以前は1基のものの中にわずかに2基（3基）のものが見られ、IV期以降2・3基のものが増加し1基のものと混在するという状況に変わっていく。

埋葬施設は、土坑のみが検出されるものと、掘り込みとその中の棺部分と推定される土坑が検出されるものがある。前者の場合掘り込み部であるのか棺部であるのかが不明で、大きさを比較する場合問題がある。また墳丘の構築時に中央部に盛られる土を、土坑と誤認している場合も考えられる。

「少数埋葬」の場合、全時期を通じて土壙の大きさはあまり変わらないが、同時期のものの中で300cm前後、200cm前後、150cm前後、100cm前後以下のものというように幾つかのクラスに分かれようである。また「多数埋葬」の山中遺跡・川原遺跡では、400cm超える大型土壙が検出されている。

棺形態に関しては、土壙面や断面の観察により直葬以外にも、小口の痕跡が残るような組み合せ木棺、側板が斜めになる槽形木棺、底面がカーブする割竹形木棺が想定されている。

III期以前には土壙内に副葬品が埋納されることはない。IV期以降ガラス小玉や玉類などの出土が増加するが、副葬品をもつものは全体から

すると少数である。また土器の副葬については、I期の東海市鳥帽子遺跡で想定されたように土壙上に置くといった行為が考えられる。特にV期以降に土壙上部から土器片が出土する例が見られるが、土壙内に遺体とともに埋納することはないようである。さらに山中遺跡でみられるように、埋葬施設周辺に土器を埋納または廃棄するための土坑が併置される可能性がある。

## (2) 土器棺

土器棺内から人骨が出土した例はなく、本文では据えられたと看做される状態で、方台部上から出土する土器を取り上げている。これらの土器の大部分は器体の一部が打ち欠かれており、他の土器や土器片と組み合わされることも多い。

方台部上に土器棺が置かれるのはIV期以降で、III期以前は方形周溝墓周辺や居住域に設けられている。ただ縄文時代以来の土器棺墓制が強く残る伊勢湾東岸域では、方形周溝墓が採用されたIV期でも方形周溝墓域と土器棺墓域は分離しているようで、豊川市麻生田大橋遺跡や西尾市岡島遺跡では方形周溝墓周辺に土器棺が散在する。また岡崎市高木遺跡では、周溝の四隅の切れるA4型の方形周溝墓の途切れ部に土器棺が置かれるが、方台部では検出されていない。さらに東岸域にあるIV期の吉良町善光寺沢遺跡では、丘陵上に土器棺墓（群）が営まれている。

## 土坑墓（表4）

方形周溝墓に関連しない墓制として土坑墓がある。土坑墓は周囲を溝などで区画されていない分、方形周溝墓の埋葬施設以上に墓としての認定が難しいと言える。これまで軸線や形態・規模を同じくする土坑群を土坑墓の可能性があるとして取り上げられているが、居住域内に掘削される大型土坑も含まれていると思われる。本文で取り上げた土坑墓は、人骨が出土しているもの、棺痕跡がみられるもの、居住域とは分離して墓域内に位置し、軸線が同様の方向をむいているものするものをあげたが、全ての土坑をこのような視点であげることはできなかつたため、極めて不備なものとなっている。

朝日遺跡95・96調査地点では、方形周溝墓域以外の地点でまとまって22体の人骨が出土している。そのうちの1体は明らかに移動したもので、今回の表には取り上げなかった。また10号・19号・21号人骨も埋葬されたものであるのか、元位置を保ってのいるかなどの点で問題がある。図5に見られる出土位置は、下層の溝内に廃棄された貝層の影響によるものであること否定できないが、貝層上でない場所からも人骨は検出されており、出土位置は一定の埋葬状況現していると思われる。埋葬時期については、土壙内から遺物が出土していないため確定できないが、下層のIII期よりは新しく、土壙を覆っていたVI期よりは古いと考えられ、調査地点の遺構の状況より、IV期またはV期初頭と推定される。ただどちらの時期であっても、方形周溝墓域内ではなく、その墓域周辺に位置していることには変わりがない。

人骨の埋葬状況は仰臥・横臥屈葬で、腕・脚部の折り曲げ方に、強く折り曲げられているものと、比較的緩やかなものがある（図6）。緩やかに曲げられている中に、膝が立てられた状態で埋葬されたと推定されるものがあり、遺体上部に空間があったことを窺わせた。また土壙は、大きさが長径180cm前後・150cm前後・100cm前後を測るものと不明瞭又はまったく見られないものがあり、女性はより小型のものに、子供は掘り込みが不明瞭なものに葬られる傾向がある。さらに土壙の軸線方向は、まったくばらばらであり、極めて近接していたり、上下に重なり合っていたりもする。

猫島遺跡ではIII期になると思われる12基の土壙が検出されている。先述した朝日遺跡95・96例よりも大型のものが多く、断面観察によつて5基で槽形木棺の痕跡が確認されている。土壙は方形周溝墓の周辺に散在しており、方形周溝墓と軸線を同じくするものが多いが、一部異なるものもある（図8）。

名古屋市熱田区高蔵遺跡ではV期の可能性がある人骨が合葬された状態で出土しており、墓域内または周辺に設けられた土壙と推定される。鈴鹿市伊勢国府跡や多気郡多気町の花ノ木遺跡は居住域以外で同形態の土坑が並ぶ事例であるが、不明瞭な点が多い。龜山市大鼻遺跡や

津市大城遺跡、松阪市東岐遺跡の事例は墓域の中に含まれる土坑墓例である。

土坑墓をどのように認定するかという問題は残るが、このような伊勢湾周辺地域における土坑墓の様相をみると、方形周溝墓群に匹敵するような土坑墓群が存在したとは考えにくく、土坑墓は方形周溝墓やその墓域周辺に散在するといった在り方している可能性が高い。ただ、墓壙の規模や木棺の使用といったことをみると、方形周溝墓の埋葬施設と大きな差はないと考えられる。

## まとめ

伊勢湾周辺の方形周溝墓の方台部上の土壙は、基本的に「少数埋葬=3人以下」であり、山中遺跡や川原遺跡にみられるような5人を超える「複数埋葬」は異質な存在であり、両者の格差は大きいと考える。また「少数埋葬」のうち、「単数埋葬=1人」は全時期を通じてみられ、2・3人の複数埋葬はIV期以降増える傾向がある。

IV期は上記のように複数埋葬が増加し、「多数埋葬」といっていいような多くの埋葬施設をもつ墓が現れるとともに、方台部上への明らかな盛土、土器棺の設置が行われるようになり、大きな画期といえる。これら現象は、この期に起る周溝の四隅が途切れる型式の方形周溝墓の激減や墓域の再編といった動きにも連動していると考えられる。

方形周溝墓の方台部上で検出される土壙の大きさは長径300cm前後、200cm前後、150cm前後、100cm前後以下のものに分かれ。また方形周溝墓の事例ではないが、95・96調査区の土坑墓にも規模の格差があり、概ね長径150cm前後以上のものに成人男性、150cm前後以下のものに成人女性（または若年男性）、

土壙の掘り込みが不明瞭なものが幼児というように分かれる。土壙の規模差により、方形周溝墓の被葬者が成人だけではなく幼児を含む各年齢層にわたることは既に指摘されており（大村1991、藤井2001）、上記の土壙の規模差は年齢差、さらに性差によるものであると想定できる。これらの差は、主に体格によるものと考えられるが、成人男性でも腕や脚を強く折り曲げられて埋葬面積が小さくなる95・962号人骨のような例（図6）や、屈（肢）葬・伸展葬などの葬法の違い、V期以降小児・幼児にも大型木棺が使用される事例が現れるなどの問題は残る。

30mを超えるような大型墓の埋葬施設が明らかではないので基本的な前提が極めて危ういが、さらに想像を膨らませると、II～III期の朝日遺跡東墓域（図9）にみられるような「群構造」をもつような方形周溝墓群の被葬者の中にも、多様な年齢の男女が含まれていたと想定することができる。このような被葬者の構成、さらに墓域構成は、河内の瓜生堂遺跡2号方形周溝墓周辺の様相（図10）と類似すると考えられるが、瓜生堂遺跡のように単数または少数の墓に複数（多数）埋葬するか、朝日遺跡のように複数の墓に単数（少数）埋葬するかといった違いがある。また土器棺や土坑墓、全体の埋葬者数をみると、大規模な方形周溝墓群の土壙に葬られる以外にも、小規模な方形周溝墓群（列構造）の土壙、土器棺、方形周溝墓周辺の土坑墓、その他の埋葬方法が採られた被葬者があったことが推定される。

以上極めて不確かな前提の上に推定を重ねていった。ただ方形周溝墓はその大きさだけで、墓の位置づけ、ひいては被葬者像が導きだされるわけではない。墓全体の構造の中で考えていかなければならぬ問題であろうと思われる。

## 参考文献

- 大庭重信 1999 「方形周溝墓からみた畿内弥生時代中期の階層構造」『国家形成期の考古学 大阪大学考古学研究室10周年記念論集』
- 大村直 1992 「方形周溝墓における未成人中心埋葬について－家族墓・家長墓説批判－」『史観』第23号
- 坂本和俊 1996 「第五章 埋葬施設の諸問題」『関東の方形周溝墓』
- 藤井整 2001b 「方形周溝墓の被葬者－下植野南遺跡の調査から－」『京都府埋蔵文化財情報』第79号
- 藤井整 2006 「近畿地方の弥生墓制～墓場の考古学によせて～」『墓場の考古学』

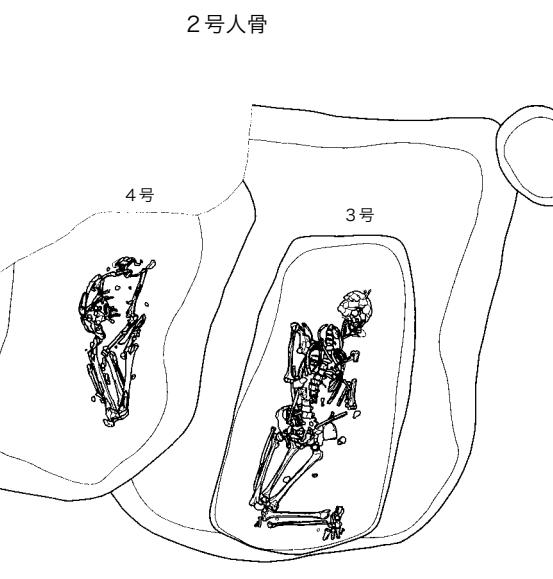
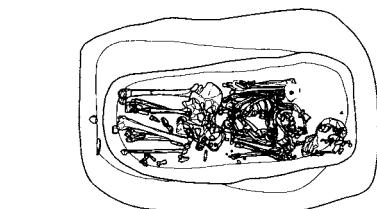
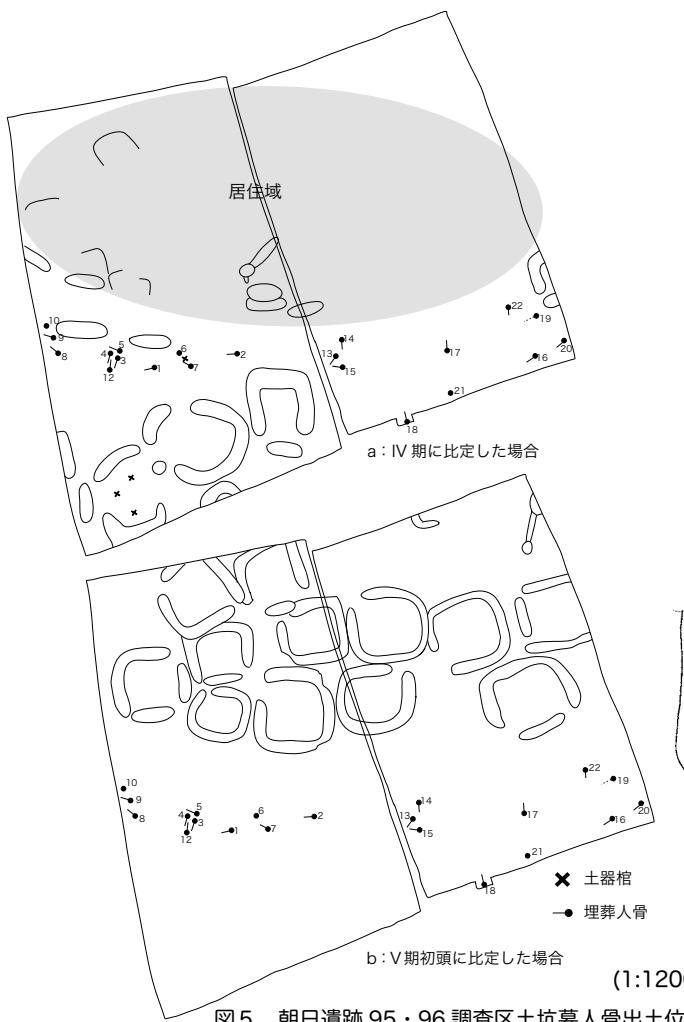
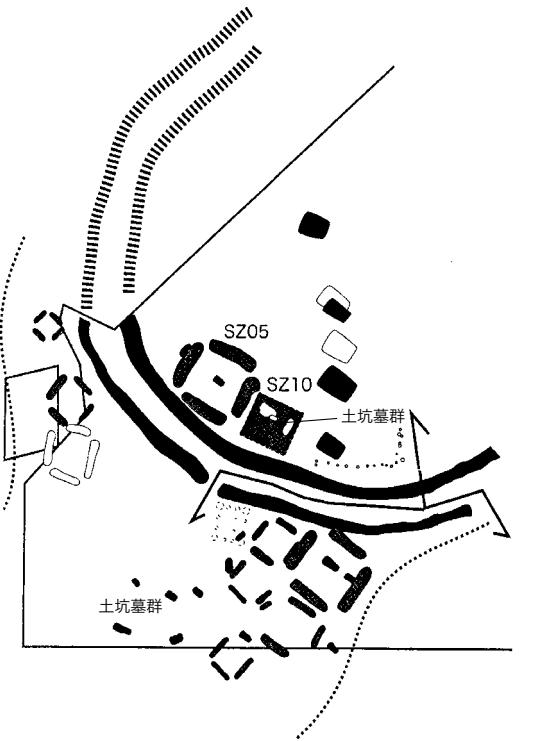
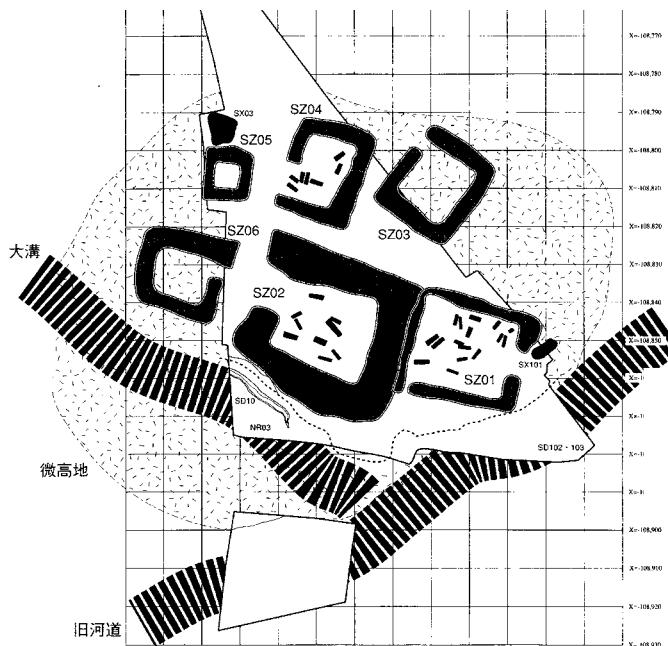


図5 朝日遺跡95・96調査区土坑墓人骨出土位置



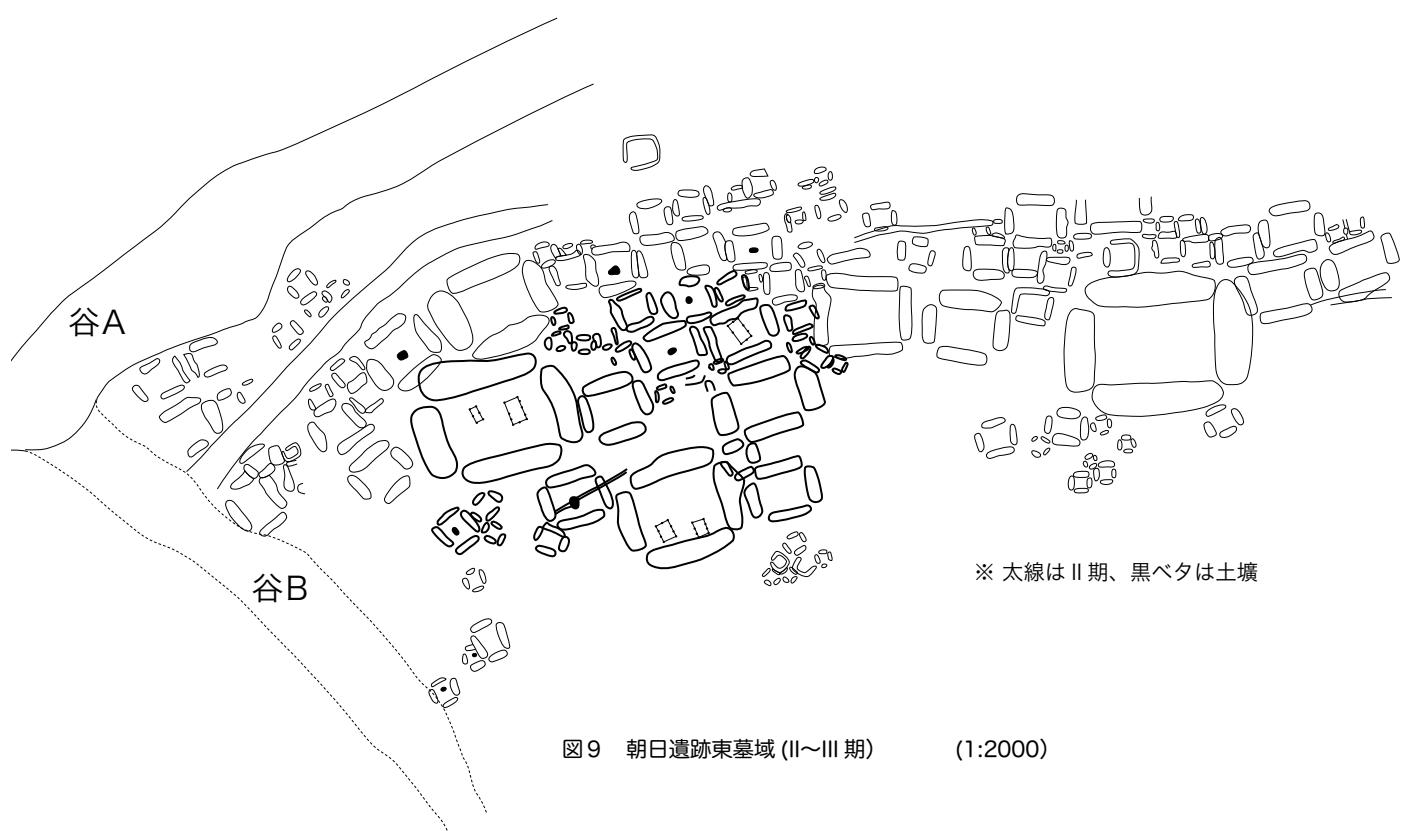


図9 朝日遺跡東墓域(II~III期)  
(1:2000)

44

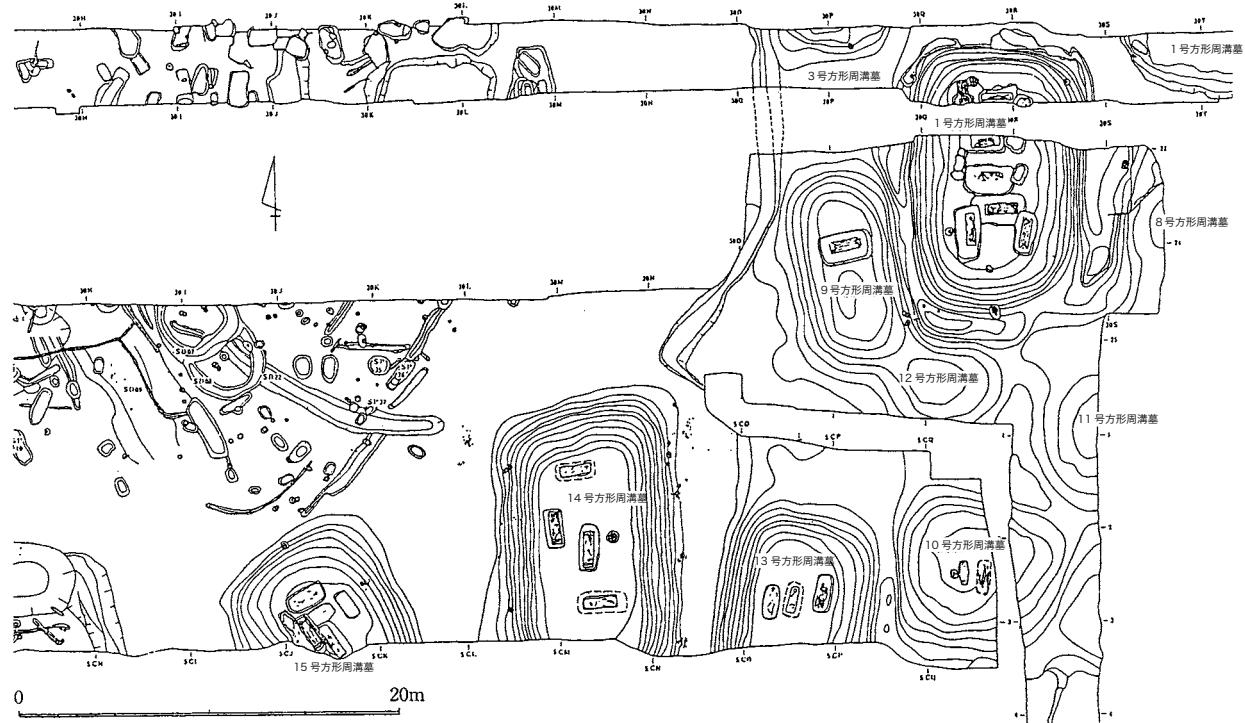


図10 瓜生堂遺跡  
(1:400)

表1 伊勢湾周辺地域方形周溝墓埋葬施設一覧表（1）

遺跡名	時期	遺構番号	墓の規模		墓の形態	埋葬施設数	埋葬施設名	掘込みが確認された土壙		土壙		人骨	位置	棺形態	副葬品
			長径	短径				土壙	土器棺	長径	短径				
朝日 (尾張低地部)	II	SZ008	—	600		(1)						(130)	—		単中
	II	SZ009	830	620	A4	1				190	90	170	—		単中 木棺の小口痕
	II	SZ047	650	620	A4	2		(1号人骨)						仰臥屈葬	複中
						(2号人骨)									複端?
	II	SZ196	—	970		1						180	105		単中
	II	SZ231	1050	930	A4	1		SK059				160	140		単中
	II	SZ237	1430	980	A4	(1)				380	244	160	100		単中? 副坑より管玉15
	II	SZ250	1330	1070	A4	(1)						332	198		
	II	14次SZ18	1380	780	A4	1		SK18				200	105		単中
	II	14次SZ34	—	400		(1)		SK01				125	70		単中
	III	SZ003	—	780	A1?	1						240	140		単中 木棺
	III	SZ190	1500	1340	A4	1				224	184	196	80		単中 棺形木棺?
	III	SZ204	420	—		1						100	70		単中
	III	SZ205	550	—		(1)						90	—		単中?
	III	SZ226	1120	1080	A4	1						230	160		単中
	III	SZ229	1000	—		(1)						220	—		単中
	III	11次SZ2	880	744	A2b	(2or3)		SK44				204	64		複中
								SK47?				—	88		複端
								SK60				264	64		複端
	III	11次SZ13	704	582		1		埋葬施設	220	112	160	60			単端 組合せ箱形木棺
	III	14次SZ25	555	530		1		P18・19・20				(160~170)	—		単中 木棺の小口痕のピット3
	III	14次SZ28	820	710		1		SK01	210	90	(180)	—			単中 木棺の小口痕 ベンガラ
	III	14次SZ42	830	—		(1)		SK05	190	100	(170)	—			中 木棺の小口痕
	III	14次SZX20-21						SD09?				215	80		単中? 土器
IV	IV	SZ111	1270	930	A3	3		主体部1				168	94	仰臥屈葬	複中 木棺の小口痕
								主体部2				160	90	届葬2体合葬	複端
								主体部3				200	90	壮年~熟年男性、仰臥伸展葬	複端
						1	主体部4							埴丘上	
	IV	SZ173	1310	895	A2b	1						240	190		単中
	IV	SZ175	1110	668	A4	1						184	132		単中 石鎌14
	IV	SZ065	1250	1150	A1		(1)								埴丘上
	IV	SZ068	880	—			(1)								埴丘上
	IV	SZ089	1150	—			(4~5)								埴丘上
	IV	SZ115	1570	—			(3)								埴丘上
	IV	SZ118	1516	1340			2								埴丘上
	IV	SZ351	1095	1095	A1?		3	SK80・81・82							棺内より石錐1
	V	SZ110	—	—		(3)		SK733				184	86	青年女性、仰臥屈葬	複端
								SK734				146	85	壮年女性、仰臥屈葬	複端
								SK736				123	70	壮年女性、届葬	複端
	V	SZ126	730	690	A1	1		ベース土の落ち込み				110	68		単端 ガラス小玉80
	V	SZ139	682	556	A2b	2		1				290	110		複中
								2				110	60		複端
	V	SZ339	1030	933	A2a?	2		SK52				(122)	65		複複中 ガラス玉、管玉
	V	SZ342	834	810	A2b	1		SK55				136	102		単中
	V	SZ343	870	813	A2b	1		SK54				389	(288)		単中
	V	SZ344	750	720	A1	1		SK56				262	196		単中
	V	SZ347	1056	960	A2a	1		SK57				208	70		単中
	V	SZ348	1110	1080	A1	3		SK58				143	113		複端
								SK59				212	92		複中
								SK60				75	40		複端
	V	SZ349	1035	—		2		SK61				201	102	伸展葬	複複中
								SK63				290	160	(15歳以上)、伸展葬?	複複中
	V	SZ350	1260	1080	A3	1		SK65				259	130		単中
	V	SZ101	870	810			(3)							埴丘上	ガラス玉120
	V	SZ103	860	720	A0		(1)							埴丘上	
	V	SZ119	—	—			(3)							埴丘上	
	V	SZ121	930	820	A0		4							埴丘上	
	V	SZ123	1500	850	A1		(1)							埴丘上	
	V	SZ131	790	—			(1)							埴丘上	

表2 伊勢湾周辺地域方形周溝墓埋葬施設一覧表（2）

遺跡名	時期	遺構番号	墓の規模		墓の形態	埋葬施設数	埋葬施設名	掘込みが確認された土壙				土壙		人骨	位置	棺形態	副葬品		
								土壙		土壙									
			長径	短径				長径	短径	長径	短径	長径	短径						
志賀公園 (尾張低地部)	II	SZ04	625	540	A4	1	SK169					175	100			単端			
		SZ05 (SZ04の 拡張)	625	580	A4	1	SK170	220	95	186	74					単中	組合せ木棺		
	III	SZ15	500	475	A4	1	SK310					210	120			単中			
	III?	SZ18	390	360	A4	1	SK297					110	70			単中			
	III	SZ19	480	—		1	SK293	160	110	(140)	—					単中	組合せ木棺小 口痕		
	II~III	SZ27	2000?	—	B	(1)	SK348					220	120			端	組合せ木棺		
猫島 (尾張低地部)	III	99B-Ca- Cb SZ01	1100	1080	A4	1	BSK16					325	125			単中	槽形木棺		
	II~III	99Ca SZ05	1060	1000	A4	2	99Ca SK40					125	75			複端			
							99Ca SK42					215	175			複中	槽形木棺		
八王子 (尾張低地部)	IV?	SZ01	1040	—		(2)	主体部1	—	90	—	80					複			
							主体部2	(280)	140	(240)	80					複			
山中 (尾張低地部)	IV?	SZ03	736	—	A3	1	主体部			250	100					単端			
	V	SZ10	1320	—		(7~9)	SK40					600	140			複中?			
							SK41					130	70			複端			
							SK42					192	95				底面に朱		
							SK43					285	88			複端			
							SK44					300	120			複端			
							SK45					135	94			複端			
							SK46					222	110			複端			
							SK47?					165	100			複端	土器納?坑		
							SK48?					170	80			複端	土器納?坑		
						(2?)	SK49(土器 棺?)					60	60			墳丘上			
							SK50(土器 棺?)					60	60			墳丘上			
	V	SZ11	1660	—		(2)	SK51	410	130	320	90					複中?			
							SK52	270	80	240	70					複端			
	V~VI	SZ13 (VIに造り 変え)	1440	—	A2b	5	SK53			550	135					複中?			
							SK54	450	190	291	72					複中?または 単中			
							SK55	355	130	280	100					複端			
							SK56	370	120	270	80					複中?			
							SK57			260	80					複端			
川原 (西三河)	V	SZ02	1500	1340	B	9	SK06	382	88	308	75					複	槽形木棺		
							SK07	326	90	298	70					複	槽形木棺		
							SK08	350	165	307	125					複	槽形木棺		
							SK09	440	125	371	101					複	槽形木棺		
							SK10	385	150	292	110					複	槽形木棺		
							SK11	316	90	200	75					複	槽形木棺		
							SK12	292	—	235	—					複	槽形木棺		
							SK13	—	180	—	110					複	槽形木棺		
							SK17	309	105	285	80					複	槽形木棺		
	V~VI	SZ01	2150	—	B	(15)	SK102	245	74							複	粘土(槽形木 棺?)		
							SK103	258	66							複	粘土(槽形木 棺?)		
							SK104	282	117	205	90					複	槽形木棺		
							SK105	251	109	235	95					複	槽形木棺		
							SK106	345	94	316	75					複	槽形木棺		
							SK107	276	90	260	70					複	槽形木棺		
							SK108	254	102	219	95					複	槽形木棺		
							SK109	260	85							複	槽形木棺		
							SK110	318	82	300	73					複	槽形木棺		
							SK111	325	100	298	82					複	槽形木棺		
							SK112	(285)	84	(285)	75					複	槽形木棺		
							SK116	315	106	295	86					複	槽形木棺		
							SK120	385	145	307	120					複	槽形木棺		
							SK121	400	120	324	109					複	槽形木棺		
							SK122	347	120	316	92					複	槽形木棺		
							SK117									墳丘上			
篠東 (東三河)	V~VI	SZ04	1840	1320	B	7	SK18	322	106	276	75					複	槽形木棺		
							SK19	275	110	235	70					複	槽形木棺		
							SK20	286	116	231	65					複	槽形木棺		
							SK21	340	108	310	70					複	槽形木棺		
							SK22	350	117	280	85					複	槽形木棺		
							SK23	(280)	116	(245)	70					複	槽形木棺		
							SK24	308	130	226	90					複	槽形木棺		
篠東 (東三河)	V~VI	SZ1			B	(2)	主体部					740	120			複中?			
							SKI					110	86			複端?	上器		

表3 伊勢湾周辺地域方形周溝墓埋葬施設一覧表（3）

遺跡名	時期	遺構番号	墓の規模		墓の形態	埋葬施設数	埋葬施設名	掘込みが確認された土壙				土壙	人骨	位置	棺形態	副葬品	
			長径	短径				土壙	土器棺	長径	短径	長径	短径				
倉谷 方形台状墓 (北勢)	IV	1号墓	1200	1200	12	5	1	270	150	170	60			複中	組合せ木棺小 口痕	管玉23	
							2	110	60	100	60			複端	組合せ木棺小 口痕		
							3				175	70			複端		
							5				110	60			複端		
							7				200	100			周溝		
							8				150	80			周溝		
							10	170	110	130	60			周溝	木棺		
							11	220	140	170	60			墳丘外	木棺		
							12	200	125	140	80			墳丘外	木棺	管玉5、勾玉1	
							14	210	140	170	60			墳丘外	木棺	砾石	
							15	220	90	200	60			墳丘外	木棺		
							17				210	100			墳丘外		
							4							墳丘外			
							6							墳丘外			
							9							周溝		ガラス玉	
							13							墳丘外			
							16							墳丘外			
	IV	2号墓	860	750?	5		1	225	110	190	70			墳丘外	木棺		
							2				100	60			周溝	木棺	
							3	130	70	100	60			複端	木棺		
							4	210	90	160	50			墳丘外	木棺		
							5	250	90	200	50			墳丘外	組合せ木棺小 口痕		
筋違 (南勢)	IV	SX16	710	650	A3?		1							墳丘上			
大城 (中勢)	V	1号墓	840	800		2	第1主体				266	105		単中	木棺		
							第2主体				265	110		周溝			
	V	2号墓	1200	1000		1	主体部				284	98		単中			
							第1主体	235	155	200	88			単中	木棺		
	V	3号墓	1320	1250		1	第2主体							墳丘上			
							(1)	主体部	220	82	184	62			単中?	木棺	
	V	4号墓	600	400		(1)	第1主体	284	159	202	60			単中	木棺		
							第2主体							墳丘上			
	V	5号墓	900	860		1	第1主体	237	158	180	70			複複端	木棺		
							第2主体	222	122	170	70			複複端	木棺		
高松弥生墳墓 (中勢)	V	6号墓	1000	750		(2)	第1主体	344	158	294	63			複中	木棺		
							第3主体				150	100		複端			
							第2主体							墳丘上			
天王山 (南勢)	V	9号墓	950	750		1	主体部	260	85	180	42			単中	木棺		
							東側				220	120		複複中		管7、刀子1 土器	
宮山 (北勢)	VI	SX19	930	840	B	1	主体部	290	130	190	50			単中	木棺		
							埋葬施設				590	90		複端			
東町田 (美濃西部)	VI	SX4	4000?	2500?		1	主体部				—	106					
							埋葬施設?										
織糸 (南勢)	VI	SX5	930	—	(1)		主体部	—	140	—	90			単中?			
							(1)	主体部	330	180	270	68		単中?	剖竹形木棺		
	VI	SX6	1250	—	(1)		主体部	360	130	255	75			単中	剖竹形木棺		
							主体部				324	164		単中			
野垣内 (南勢)	VII	SX19	960	—	B		(1)	SX22						墳丘外?			
東町田 (美濃西部)	IV	SZ14				(1)		SK01				130	50		周溝		
瑞龍寺山山頂 (美濃南部)	V					(2)	第I遺構				(400)	100				管玉1	
							第II遺構				340	(100)				(鏡1.土器)	
金ヶ崎 (美濃内陆部)	VI	SX03	1160	1100		1	主体部				350	210		単中	舟底状木棺		
							主体部				240	100		単中	舟底状木棺	管玉11、勾玉2、 銅鑓3	
	VII	SX05	980	890		1	粘土塚遺存							単中?			
							周溝内土坑墓				290	100		周溝			
	VIII	SX02	1870	1720	B?	(1)	主体部	—	172	—	68			単中?	剖竹形木棺		

※ 規模の単位は cm

規模の（ ）は約 2/3 以上遺存しているもの

※ 方形周溝墓の規模は墳丘側下端間で計測

※ 埋葬施設数の（ ）は墳丘の全体が不明なもの

※ 棺形態は報告書に記述されているものをそのまま引用した

※ 位置 :

墳丘上の土壙の位置については下記のように分類した

・ 単中一土壙が単独で、墳丘の中心部にあるもの

・ 単端一土壙が単独で、墳丘の端部にあるもの

・ 複中一土壙が複数あり、その中に中心部にあるもの

・ 複端一土壙が複数あり、その中に端部にあるもの

・ 複複中一土壙が複数あり、全てが中心部にあるもの

※ 墓の形態分類 :

A0

A1

A2a

A2b

A3

A4

表4 伊勢湾周辺地域土坑墓一覧表

遺跡名	時期	遺構番号	掘込みが確認された土壤				土壤		人骨	棺形態	副葬品			
			掘込み		土壤		長径	短径						
			長径	短径	長径	短径								
鳥帽子 (知多半島)	I	SK13					195	75		木棺?	下呂石34、安山岩1、条痕壺1			
	IV	SD07					220	70			鉢1			
猫島 (尾張低地部)	III	99B SK02					215	120		槽形木棺				
	III	99B SK03					150	75						
	III	99B SK04					225	100						
	III	99B SK13					255	140		槽形木棺				
	III	99B SK14					140	100		槽形木棺				
	III	99B SK36					125	60						
	III	99B SK37					—	125		槽形木棺				
	III	99Ca SK41					310	200						
	III	99Ca SK43					135	85						
	III	99Ca SK45					275	150		槽形木棺				
	III	99Ca SK53					190	60						
	III	99B SD40					—	112						
朝日 (尾張低地部)	IVorV	95・96 1号人骨土壤	—	240	—	68			未成年(14歳以上)、仰臥屈葬					
	IVorV	95・96 2号人骨土壤	164	106	140	64			成人男性(20~25歳)、仰臥屈葬					
	IVorV	95・96 3号人骨土壤	252	(200)	176	92			成人男性(20歳代中)、仰臥屈葬					
	IVorV	95・96 4号人骨土壤					—	144	成人、男性?、仰臥屈葬					
	IVorV	95・96 5号人骨土壤							(4歳前後)、横臥					
	IVorV	95・96 7号人骨土壤	186	118	104	60			(13~15歳)、仰臥屈葬					
	IVorV	95・96 8号人骨土壤					124	88	成人女性(25歳前後)、横臥屈葬					
	IVorV	95・96 9号人骨							(4~5歳)、横臥屈葬					
	IVorV	95・96 10号人骨							(3歳前後)、不明					
	IVorV	95・96 12号人骨土壤					156	104	成人女性(40歳代以上)、仰臥屈葬					
	IVorV	95・96 13号人骨土壤					(168)	96	成人男性(20歳代前半)、仰臥屈葬					
	IVorV	95・96 14号人骨土壤	(160)	112	184	68			成人男性(20~30歳)、仰臥屈葬					
	IVorV	95・96 15号人骨土壤					172	90	成人男性、仰臥屈葬					
	IVorV	95・96 16号人骨土壤	(196)	112	(180)	76			(13~15歳)、仰臥屈葬					
	IVorV	95・96 17号人骨							成人男性(30歳代以下)、仰臥					
	IVorV	95・96 18号人骨土壤	208	100	186	78			成人男性(20歳前後)、仰臥屈葬					
	IVorV	95・96 19号人骨							成人男性(40歳前後)、仰臥伸展葬?					
	IVorV	95・96 20号人骨土壤	242	144	140	104			女性or若年男性、仰臥屈葬					
	IVorV	95・96 21号人骨							女性?、不明					
	IVorV	95・96 22号人骨土壤					100	84	女性(20歳代)、仰臥屈葬					
高蔵 (名古屋台地部)	V?	SK209					188	65	成人、壮年、2体横臥?、伸展					
伊勢国府跡 (北勢)	III	SK149					—	90						
	III	SK151					350	110						
	III	SK153					350	60						
	III	SK154					270	80						
	III	SK161					270	110						
	III?	SK157					300	100						
花ノ木 (南勢)	III	SX22					220	110						
		(周溝墓か?)					250	120						
							250	120						
							290	110						
大鼻 (北勢)	IV	SX12					252	93		箱式木棺				
大城 (中勢)	V	SX01	220	120	170	90				木棺				
		SX21	260	100	215	69				木棺				
		SX22	238	64	194	44				木棺				
東峡 (南勢)	VI	SX9	230	120	192	72				木棺				

※ 規模の単位は cm

規模の( )は約2/3以上遺存しているもの

※ 方形周溝墓の規模は墳丘側下端間で計測

※ 埋葬施設数の( )は墳丘の全体が不明なもの

※ 棺形態は報告書に記述されているものをそのまま引用した